



高水地協ニュース

連 合 長 野
高水地域協議会

○ 発行責任者 小林 君男
○ 編集責任者 岩本 淳一

〒383-0025 中野市三好町 1-1-19 Tel.0269-23-0505 Fax.0269-38-0575

平和集会『満蒙開拓平和記念館』の見学ツアー実施

地協の平和集会は、昨年に引き続いて阿智村駒場にある満蒙開拓平和記念館を見学しました。

実施日：9月12日(土) 飯山市 7:30 出発

参加者：30名

※32名の予定でしたが、当日は都合により2名不参加



満蒙開拓平和記念館は、旧満州（中国東北部）に入植した満蒙開拓団の苦難の歴史を伝え、平和の尊さを次世代に語り継ぐために設立された満州移民史を扱う日本で唯一の民間施設です。

ツアーバスは、予定通り各集合場所を回って目的地へと出発しましたが、自動車道に乗って間もなく交通事故の発生により一般道（国道）へと迂回し、予定の1時間遅れで安曇野ICから自動車道へ入り、飯田ICをめざしました。バスの運転手には時間回復に努力していただいたものの、入場時間には間に合わなかったため、先に昼食を済ませて午後2時頃目的地に到着しました。会館では、二グループに分けて展示物を見ながら、専任の現地ガイドより開拓の歴史や生活の様子などを説明していただきました。

帰路の車中では、参加者が印象を受けたことについてアンケートを取りました。（以下に一部を紹介します）

- ※悲惨な戦争は、やはり繰り返してはならないものであり、平和の有り難みを改めて感じました。後世に伝えていく必要があると思いました。
- ※過去の戦争の一実例ではありますが、風化させてはいけないものであると感じました。
- ※県の特徴的な平和学習会の機会としても、良い企画であると思います。
- ※国策とはいえ、二度と起こしてはいけないと思います。
- ※満蒙開拓とは何だったのか？ 結果的に死者と不幸な人を多く出しただけだったのでは……
- ※今の平和な世の中とのギャップが、心に響きました。

- ※今も、これからも戦争はあってはならない。平和な世界であってほしい。
- ※私の叔父も満州に行っており、当時の状況から「仕方がなかった」と考えるより、ほかに方法がなかったのかと……悲しいことだと思います。
- ※過去のことが今のことになろうとしています。しっかり政治に関心に向けて戦争への道を止めなければいけないと痛感しました。
- ※同じ過ちを繰り返さないために、私たちは自分で情報を見極め整理し、国の行動を監視することが大切だと思います。
- ※安保関連法案という、一つのターニングポイントに立たされている中、平和な未来を失わないために組合としてできることをしていきたいと思います。
- ※安保関連法案の可決に向けていますが、同じ悲劇を繰り返してはいけないと強く感じました。
- ※平和であるということを実感するとともに、今なお戦争が行なわれている現実を見ていかなければならない。
- ※県に、何で平和記念館があるのか疑問でしたが、説明を受けて納得しました。知らないということは恐ろしいことだと感じ、繰り返してはいけない歴史だと思います。
- ※一人でも多くの人にこの記念館に行ってほしいと思います。当時の悲惨な状況を知ることができ、良い経験になりました。
- ※記念館で説明があったように、長野県が一番多く移民として行かれたことに驚きました。戦争や開拓団のような辛いことは絶対に繰り返してはいけないと思います。



- ＊話としては知っていることでも、具体的な情報・写真・実物・地図などを見ていると、一層理解が深まりました。
- ＊日本は再び「戦争のできる国」になりつつありますが、それは絶対に阻止しなければなりません。
- ＊多くの人々が犠牲になってきた歴史に考えさせられることが多く、勉強になりました。戦争のない平和な世の中にしなければいけないと思います。

- ＊私の祖父母は満州で私の母を産み、必死の思いで日本に帰ってきたと聞かされましたが、その壮絶さの意味を初めて知ることができました。今回のバスツアーに参加して良かったです。
- ＊我々日本人は、説明のあった歴史を良く知り、アジア諸国との良い関係を築いていかなければならないと感じました。

今後の『役員選考のあり方』について討議を始める【北信地連】

北信地区連合会（北信地連）では、連合長野の要請に応えた「地域に根差した労働運動」の継承と充実のため、役員選考における輪番制（当番表により構成単組から役員を出す）の見直しを念頭に、今後の役員選考のあり方について討議を始めました。当地協にとっては大変に重要な課題であり、各単組より友愛・信義・団結の精神をもって「先の見える方策」について、建設的なご意見をお寄せいただきたいと存じます。

■ 討議テーマの背景と課題

北信地区連合会（北信地連）の役員改選に当たっては、地協運営規程に則って有資格者の立候補を受付けているが、未



地協幹事会の様子

だかつて立候補者は出ていないことから、事前設置の役員推薦委員会における検討結果の答申により、定期総会での承認を経て新役員が就任していますが、今回の討議テーマは役員推薦委員会で当番表により次期役員を選考する、い

わゆる『輪番制』の是非と、これからの北信地連役員選考における具体的な方向性を見出すことにあります。

旧北信地協の発足当時は、「地域での労働運動を根付かせ、広めていくための役員配置が必要である」ことを前提とした選考答申を受け、官・民の交代制により三役を担ってきた経緯があり、比較的に単組役員の交代時期が早い官公労組においても、三役には決裁権者（執行委員長）に就任し貰い、加えて任期2年という運営規程の中でも、再選により最長8年間に亘って就任していただくなど、地域の顔役として労働運動を推し進め、着実に根付いてきました。

しかし、時代の変遷によって「闘う労組スタンス」から「協調・信頼の労使関係」へと移り変わるなど、私たちを取り巻く環境の変化に伴い、労働運動の本質である「労働者が団結して自らの経済的・社会的な地位の安定、向上を確保するために行う運動」の意識が徐々に薄れつつある中で、役員選考に極めて苦慮してきたことなどから、いつしか「役員の当番



主要闘争の春闘総決起集会

表による輪番制」に変更され今日に至りました。

これは、「構成単組が役職を平等に担う必要があり、当番表によって予め次期の役職を決めておけば当該単組は受けざるを得ず、役員

推薦委員会で苦勞することはない」との理由ですが、

①組織の顔役である議長・事務局長が頻繁に交替するため、地域に根差した連合運動の継承・発展ができな

い、②地域におけるトップユニオンとしての存在感が薄れ、連合運動の役割が発揮できない、③小規模や遠隔地、組合員が過半数に満たない単組は物理的に役員を引き受けられない、などの重要な課題は議論されておらず、こうした組織事情で引き受けられない単組はいつしか脱退してしまう、あるいは決め方に不信感を抱くような問題になってしまいます。連合長野の一員として積極的に地域に根差した労働運動を展開していく、そのために北信地連は何をしていくべきか、それは運動の継承と継続であり、経験を積んで「考え実行する」ことの外ないのです。それはまさに「強固な組織（役員）体制の構築から始まる」ということであり、劣悪な労働環境の中で政府



定期総会に臨む地協役員



ユニオンスクールで運動論を学ぶ

への抗議活動とともに、もっと末組織労働者に温かい手を差し出せるような運動展開のできる組織体制の構築が求められており、これが今回の討議テーマの背景と課題です。

■ 地協5役会議での議論

こうした役員選考の実態を踏まえて、8月10日に地協5役会議を開催し「北信地連のこれからの役員選出の方向性」について議論してきました。

具体的には、須高地連の役員選出経過を念頭に、①三役は許す限りの長期的就任により、地域運動の充実・発展に繋げていくべきであり、「課題の先送りは許されな



市長との懇談会で挨拶する小林議長

積極的に推進してトップユニオンを根付かせ発展させていくためにも、輪番制なる役員選考は考えたこともない。一つの組織（地協）・二つの運動体（地連）で活動を展開していくためには、組織論として輪番制なる役員選考は必ずしも組織の充実・発展に寄与しない、④次期は北信で重責（議長）を担うことになるが、1期2年の短期間で降板するようなことでは地連相互の連帯感は崩れ、指揮命令権者である連合長野との信頼関係が希薄になるのではないかと、等々の意見・要望に集約され、北信地連（会長・事務局長）は、ここでの論議経過をもって8月21日開催の構成単組代表者会議へ説明し、取り纏めることと致しました。

■ 北信地連構成単組代表者会議での議論

地連会長から「本会議は、北信地連のこれからの役員選出の方向性として、現状の輪番制を見直すために議論し、出された意見・要望等を取り纏めて、次期役員選考の検討資料としたい」と述べ、会議をスタートさせました。加えて、議長からは「北信地連の輪番制は、組織運営上運動の蓄積発展に阻害している」と考える。また、構成単組が退会した場合や新規加盟した場合の取り扱いが決められておらず、地連活動の発展強化の観点からも新しい選出方法を議論して貰いたい。ここで出された意見・要望は、後の主要単組代表者に反映し、2ヵ月程度の議論を経て一定の方向性を見出していきたい」との発言がありました。

本件は、アンケートによる各単組の意見・要望を加えた検討により、10月末を目途に一定の方向性を出していくこととなりますので、本紙ではここで出された議論内容を紹介し、各単組内にて議論を深めていただきたいと存じます。

＜代表者の発言・地協（議長）見解要旨＞

※発言単組名は控えさせていただきます。

【発言】本件を考える前に、「連合の将来ビジョン」についてどのように考えるか？

【見解】連合組織は全国300地協。連合長野では、大規模組織が抜け1万人減で財政も厳しくなり5千人を割る地協は統合を進めていく方針。

統合ができた地協には、本部から事務局次長のような専任の職員を事務局へ配置していく体制をとっている。過去には永く役員を務めた方もいたが、輪番制ができてから

い」との意識を持って活動を展開することが重要だ。②単組事情で役員を引き受けられない組織への配慮が必要だ。③須高は中核の3労組が地域運動を牽引し現在では2労組ではあるが、地域運動を積

はほぼ1期交代となり、近年は1年交代が10年間ほど続くなど、持続的な運動に大きな弊害が出ている。地域の繋がりは重要であり、地連で2ヵ所事務局を置いている。地域労働運動はできる限り小さい方が良いため、人件費が続く限りは今の体制で活動・運営したいと考えている。

【発言】須高地連と北信地連は、人件費が続く限り纏まることはないということか？

【見解】地域に根差した労働運動は、そういう中でしか機能しない。現状が良いと考えている。

【発言】地域に根ざす活動なら、北信地連をもう一度分解した方が良いかも知れない。

【見解】連合方針の中、現予算や制度の現実を鑑みて、現状の二つの地連で地協五役が主体となった運営形態がベターであるとする。

【発言】中々、役員を担う人がいないので将来は地協1本でいかないと厳しいのでは。それがあから輪番制になったのではないかと。

【見解】現実的に、高水地協は広範囲で議長が全域の労働運動を見切れないし、全単組を回することは極めて困難である。

【発言】役員で分担してはどうか。また、「どのようなスケジュールでいくか」のロードマップの中で代表者が集まり、ある程度の期間を設けて話し合うのが落としどころではないか。

【見解】そもそも今の当番表に問題がある。小規模単組は役員を受けられるのか、来年は最北の単組が副議長を担当するというが……

※当該単組：次期委員長の負担になり、本当にできるか心配。

※関連発言：副議長を二年間務めたが、我が単組には自治体職員労組のような組織力はない。中核単組に引き受けて貰うのが良いと思う。経験して、地協組織の一員である自覚はできた面はあったが役員として地連地協を引っ張っていくには弱小組織だと厳し過ぎる。

【発言】結局、役員は個人の負担になる。状況は判るが、現状は当単組でも役員の1年交代が現実であり、この場で決めるのは難しい。

※関連発言：役員を受けるからこそ良いことがある。輪番制があるから皆で経験できる。無くし

てしまうとその機会を奪ってしまう事にもなるし、大きな単組だけが担う弊害はないか？

【見解】はっきり言ってやりたい人は誰もいない。だから、私は自治労・電機・農団労などの大きい三単産で、



懇談会で市政状況を語る三木市長



各地連で地区メーデーを主導

あったが役員として地連地協を引っ張っていくには弱小組織だと厳し過ぎる。

【発言】 結局、役員は個人の負担になる。状況は判るが、現状は当単組でも役員の1年交代が現実であり、この場で決めるのは難しい。

※関連発言：役員を受けるからこそ良いことがある。輪番制があるから皆で経験できる。無くしてしまうとその機会を奪ってしまう事にもなるし、大きな単組だけが担う弊害はないか？

【見解】 はっきり言ってやりたい人は誰もいない。だから、私は自治労・電機・農団労などの大きい三単産で、この当番表を考え直してほしいと思っている。このままではズルズル行ってしまうし、当番表にない単組は役員のチャンスもない。こうした輪番制を止めて、中心になる人たちが集まりルールを決め直して貰う必要がある。でないと須高から議長、北信から事務局長を出すという体制がいつまでも継続する。前・現事務局長は個人の努力・力量でやって貰っているが、このままでいいのか。「決まったのだから知らない」というのは組織として如何かというのが私の意見。小委員会で議論し、北信地連のルールを決めて貰いたい。

【発言】 輪番制の廃止を前提とした小委員会にしていけるか？

【見解】 次期は本当に最北の単組が副議長を担当できるのか。当該単組の意見を踏まえれば、「輪番制だから引き受けて貰うしかない」とは言えない。

【発言】 持論は「組合一運動があるので、小規模単組であろうが」という見方はあるが……

【見解】 この持論をもって、現行の輪番制により無理やり三役を決めるのは組織強化にはならない。また、一方で当番表に入っていない単組もたくさんある訳だから、公平な決め方ではない。

※関連発言：当労組は、組合員が過半数未達の組織であり、重職を指名されても引き受けられないのが実態。

※関連発言：当支部は組合員数が多いが、支部組織のた

め執行委員は少なく本部指示のもとで活動している。このような活動形態の中で、現実的に重職は引き受けられない。

【発言】 この場ではすぐに見直しの結論は出せない。持ち帰って執行委員会で検討してみたい。

【見解】 今日は構成単組の代表者が出席した会議であり、皆さんには「連合組織の一員として、今後はどのように関わっていくか」の議論を真剣にすべきである。多くの人は、この問題から目を背けたいと思っているかも知れないが、議長



春闘方針を説明する連合長野根橋事務局長

は単組の専従者でなければ大変だし、非常に困難な状況にある。今のような頼った回し（当番）の決め方には大変に無理がある。皆で連帯意識を持ち、地協（地連）活動の充実、発展強化に繋げていかなければならない。当番表を壊すような言い方をしたが、小委員会を開き10月末を目途に結論を出すのはどうか。また、その小委員会のメンバーをこの場で決めたらどうか。

【発言】 アンケート形式により言えない人の意見も聞き、それを加えた中で誠意検討していくことも必要だと考えるし、重職を務めたい人もいるかも知れない。ただ、本会の総意であれば小委員会メンバーを指名しても構わないが……

【見解】 今日は「一定の結論は求めない」ということで、9月10日頃までに本会の議事録とアンケートを配り、それぞれの単組から意見・要望を出して貰い、その内容を加えて北信地連の会長を中心に、代表単組（5労組）と地連三役による小委員会を開催し、具体的な選出などを含めて10月末を目途に一定の方向性を示す」ということを確認し会議を閉じたい。

＜全員了承＞

『生かそう守ろう平和憲法』須坂市民大集会を開催〔須高地連〕

須高地連は、地域の労働団体と共催して「生かそう守ろう平和憲法」須坂市民大集会を開催しました。

日 時：9月15日（火）午後6時より

会 場：須坂市役所多目的広場

参加者：500名

須高地連 11単組 350名

他 団 体 5単組 80名

一般参加 70名

集会は、小林地連会長から「今国会では政府が立憲主義を投げ捨て、アメリカの戦争に加担する“日本を戦争する国”にするための法案審議が大詰めを迎えている。法案の中身を再認識し、“法案成立に断固反対”の声を喚起する集会にしたい」と挨拶し、7つの単組・団体の代表による“こど



集会に参加した構成単組の組合員

もたちを戦場に送らない”などの意見アピールを行い、シュプレヒコールを連呼しながら須坂駅前まで行進しました。